

メキシコの条件付き現金給付プログラムにおける教育効果のメタ分析

共生基盤学専攻 共生農業資源経済学講座 開発経済学研究室 西井 一史

1. はじめに

貧困に苦しむ国, 地域は 21 世紀に突入してもなお存在している。貧困削減のためには様々なアプローチがあるが, その中の一つとして条件付き現金給付プログラム (Conditional Cash Transfers, 以下 CCT) が挙げられる。CCT とは, 定期的な受診や通学を条件に各家庭に現金給付および子供の就学支援といった援助を行うことで子供の人的資本向上を目指し, 長期的な貧困削減を目的とするプログラムである。中でもメキシコの CCT プログラムは CCT の嚆矢の一つである。教育や健康面などにおいて高く評価される実績を上げたとされるメキシコの CCT は, その後に続く CCT プログラムの基礎となった。しかしながら, メキシコ政府はこの CCT プログラムを廃止することとした。そこで本研究では, メキシコにおける CCT プログラムがメキシコの教育レベルに与えてきた影響を統計的に明らかにする。

2. 分析方法

本研究ではメタ分析を用いて, 従来の研究結果を統計的に統合することでプログラムの実施による教育レベルへの影響を分析した。メタ分析では用いる研究数が多いことが望ましいため, 教育レベルの中でも比較的研究がなされている就学率 (enrollment) に分析対象を絞った。また, 収集した文献の研究結果を, プログラム受益者すべてを対象としたグループ, 受益者のうち小学生のみを対象, 中学生のみを対象, 男子のみを対象, 女子のみを対象としたグループの計 5 つのグループに分けた上で, グループごとにプログラム実施による就学率への影響を導出した。

3. 結果

プログラム受益者すべてを対象としたグループの就学率は, プログラムの実施により 3.6%ポイント増加していた。小学生のみ, 中学生のみを対象としたグループの就学率は, それぞれ 2.0%ポイント, 3.2%ポイント増加していた。ただし, この両者の間には有意な差は見られなかった。男子のみ, 女子のみを対象としたグループの就学率は, それぞれ 3.1%ポイント, 1.4%ポイント増加していた。男子のみのグループと女子のみのグループ間では有意な差が見られた。

プログラム受益者すべてを対象としたグループにおいて分析対象年で 2 群に分けた分散分析を行い, 研究結果のばらつきの要因を検討したが, 群間で有意な差は見られなかった。

4. おわりに

メキシコでは CCT プログラムの実施により, 学年および性別によって差はあるもののプログラム受益者の就学率は向上していることが明らかとなった。また, 各研究の結果にばらつきが生じていることも明らかとなった。しかし, 分散分析において分析対象年で群を分けたところ有意な差は見られなかった。この結果, 各研究における分析対象, 手法によって分析結果が異なる可能性が示唆された。